

## ハイチ友の会20周年 おめでとうございます

角泰人

(会員 / 石橋クリニック医師)

東京都東久留米市の石橋クリニックに勤務している角（かく）と申します。僕が最初にハイチという国を意識したのは医学生時代の1990年前後、アリストイド氏が追放された時のフォトレポートを岩波書店の雑誌「世界」で読んだ時でした。冷戦が終結し、中米の戦火も収まりつつあったこの時期、風光明媚なイメージのあるカリブ海にまだまだ大変な国があるのだなあ、と思った記憶があります。20年の時をへて、2011年の2月に偶然ハイチに行く機会を得ました。出発前に小澤先生から御連絡を頂き、レオガンで勤務するハイチ友の会のスタッフの方へお届け物をさせて頂いたのが、ハイチ友の会との最初の御縁でした。御連絡を頂く前に、東京新聞に掲載された小澤先生とハイチ友の会の紹介を見ていたので、少しでもお役に立てて嬉しいと思ったことを覚えています。

自分はそのあと日本リザルツのスタッフとして数回ハイチ行きを経験し、結核診断のための研究に従事することになりました。結果としてハイチの結核対策にどれくらい貢献できたのか、まだ実を結んだとはいいい難い状況ですが、ハイチには親しくお世話になった人たちがたくさんできました。できればハイチへの支援を続けて行きたいのですが、今の自分にはそのちからがありません。ひきょうかもしれませんが、持続する志でハイチ支援を続けているハイチ友の会さんに自分のハイチへの思いを託して、会員としてハイチに目を注ぎ続け、間接的にでもお役に立てれば、と思っています。20年間ハイチの方たちと歩み続けられたこと、本当に素晴らしいですね。心から尊敬しています。これからもこの歩みが続いていくことと思いますし、それを支える裾野の一部に居続けたいと思っています。

